



10年目を迎えた本紙フォワードをリニューアルしました。ぜひご愛読ください!



改めて『千代田』のまちづくりを考える!



都市計画マスタープランが ついに改定!

千代田区では、20年ぶりに「都市計画マスタープラン」の改定が検討されました。これは、都市計画法に基づく千代田区のまちづくりにおける最上位計画であり、区民、企業、行政の協働によるまちづくりの指針となります。豊かな都心環境と高度な都市機能を有する千代田区は「代表制と多様性」を兼ね備えた唯一無二の都市であり続けています。「日々変貌する中で普遍的な価値を守る」これが千代田区のまちづくりのポイントとなります。「歴史に育まれた豊かな都心環境を次世代に継承し、世界の人に愛されるまち、千代田」をまちづくりの理念とし、「人・まち・コミュニティがつながるまちづくり」が進められていきます。

また、早くから都市化が進んだ千代田区では老朽化が進み、首都高速やオフィスビル、マンションなど機能更新が求められています。大規模地震・自然災害・気候変動リスクへの対応や脱炭素化の推進など、持続可能性も今後益々求められていきます。この「都市計画マスタープラン」では、再開発や共同化、個別建替えやリノベーションなど多様な手法を適切に組み合わせ、時代に即した市街地の再構築を進めるとしています。地域の個性・価値を高め、持続可能なまちづくりを進めるためには、「地区計画」の見直しも必要となります。千代田区では、39地区、約507ha、皇居周辺を除くおよそ6割にきめ細かく「地区計画」が定

められています。しかし、30年以上も前に決定したのものもあるなど、社会や地域環境とそぐわない計画も散見され「地区計画」の見直しも急がなくてはなりません。

ニューノーマル時代の千代田とは

私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大によって、外出自粛など日常生活が大きく制限され、生活様式や働き方など、価値観の大きな変化に直面しました。通勤・通学のスタイル、人との接し方やコミュニケーションのとり方など、私達がこれまで「常識」と考えていたことが変わり、Withコロナ・Afterコロナに適應するための行動、いわゆる「ニューノーマル」に移行してきました。

テレワークの普及により、どこでも働ける環境が整いつつありますが、逆にコミュニケーションの重要性が再確認され、直接人と人が会い、議論・交流する場が一層必要となってきました。ニューノーマル時代の働き方では、単純作業はテレワークで、コミュニケーションやクリエイティブな仕事は都心

Think

のオフィスへと役割分担するのではと思います。

一方、これからは徒歩や自転車で移動できる小学校区程度の範囲で、暮らし、働くことができる職住近接が理想であると考えています。まさに、都心に位置する千代田区だからこそ出来るまちづくりだと思います。パリやミラノでは、15分の徒歩圏内で職住近接が実現する「15分コミュニティ」運動に取り組んでいます。樋口区長も、居心地がよく歩きたくなる街の形成を目指す「ウォーカブル推進都市」への取り組みを約束してくれました。千代田区の人口はコロナ渦においても減少しておらず、都市機能の集積ニーズや都心で暮らしたい人々は、今後も変わることはないと考えています。

変わらぬ「5つのお約束」

まちづくりに携わりたいと、25年間勤めたトステム(現LIXIL)を早期退職し、区議会議員として10年間活動する中で、20年ぶりとなる「都市計画マスタープラン」の改定に参画できた事を大変嬉しく思います。一方、東京都議会議員選挙を通じて、沢山の区民の皆様とお会いし、お話をさせて頂きました。そのなかでは、多くの困りごとやご要望もお聞きすることが出来ました。例えば「子ども達が遊べる屋根が付いた空間が欲しい」「身近でスポーツが出来る施設がない」「企業任せの再開は心配」「町会が人手不足で継続できない」「環境問題や災害も心配」等々です。

ここではご紹介できない程、多岐多様なお話を頂きました。千代田区も感染症対策をはじめ、首都直下地震や都市型災害、少子高齢化や脱炭素化など様々な課題を抱えており、改めて地域のまちづくりを考え直し、実践して行かなければならないと強く感じました。

- ① 「千代田のまちづくり」に全力で取り組みます。
- ② 皆様からの「ご相談」に迅速にご対応します。
- ③ 活動レポート「FORWARD」を定期的に発行します。
- ④ 「タウンミーティング」を定期的に開催します。
- ⑤ 国、東京都、千代田区をしっかりと「繋いで」参ります。

内田直之 5つのお約束



Study

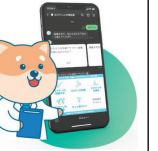
新型コロナウイルスワクチン接種率

ワクチン接種記録システム(VRS)に基づいた千代田区のデータです。千代田区では目標としていた対象区民の80%の接種が達成できそうです。

10月18日時点

年代	2回目接種人数	2回目接種率
65才以上	10,091	88.4%
40~64才	18,941	78.2%
20~39才	13,864	73.0%
12~19才	2,475	66.6%
合計	45,371人	77.7%

(お問い合わせ)
千代田区新型コロナウイルス
ワクチン接種コールセンター
Tel:03-5211-4114



区議会ウォッチ(決算特別委員会)

決算特別委員会と、予算の執行が適切かつ効率的に行われ、十分な成果が挙げられているかの審査を行う大変重要な委員会です。決算の結果は次年度の予算に活かされるため、決算と予算の連動性を意識した審査が重要となります。

令和2年度の一般会計決算は、コロナ対応への支出が増え、総額765億円にのぼり、前年度比33.8%増の非常に大きな決算額となりました。総括質疑の中では、避難所運営の在り方などの災害対策や教員の資質能力の向上といった教育関係の質疑などが行われ、自民党など賛成多数で、令和2年度決算は認定されました。

委員長は永田壮一議員が務め、少数会派に配慮するなど丁寧な議事進行が評価されています。来年度の予算編成に向けて、しっかりと区民の声を行政に届けて頂きたいと思います。



世界の街歩き



ケルン(ドイツ連邦共和国)
人口 108万人
面積 405km²

ケルンは、ドイツではベルリン、ハンブルク、ミュンヘンに次いで4番目に大きな都市であり、1世紀から続く古都です。フランスやイギリスに統治された歴史も持ち、イギリスの地方自治制度が採用されています。

私は2006年、FIFAワールドカップを観戦する為にドルトムントに居ました。残念ながら日本は予選敗退となり、帰国する前に世界遺産でもある大聖堂を見ようとケルンを訪れました。ドイツではケルンと言っても全く通じず、コロと発音することを後にドイツ人に聞きました。オーデコロン(和訳:ケルンの水)のコロンだそうです。2回目の訪問は2019年です。妻と一緒にフランクフルトからライン川を下り再訪しました。

ケルン市街は、ライン川の両側にまた

がり、その中心にケルン大聖堂があります。ゴシック様式の建築物としては世界で一番大きく、ウェストミンスター寺院(ロンドン)やミラノ大聖堂(ミラノ)と並んで有名です。現在の建物は3代目となり、600年を費やし1880年に完成し、高さ157mは当時世界で最も高い建築物だったそうです。なにしろ大迫力です。近くからでは写真に納まらない程の大きさなので、訪れる際は広角レンズをご用意されると、上手に撮影できると思います。歴史を大切に守る、欧州らしい素敵な街でした。

Sense





スポーツを通じて、連帯感や活力の醸成に大きく貢献できると考えています。

スポーツ活動を介して、人をつなぎコミュニティを育むことは、私も重要だと考えております。



樋口高頭 千代田区長
1982年8月生まれ、京都大学法学部卒業。
(株)電通国際情報サービス、東京都議会議員を経て、令和3年より千代田区長。
趣味は読書、茶道、ジョギング。

予算編成に向けて

内田直之(以下、内田)：

樋口区長は今年2月に就任され、翌3月には令和3年度予算を審議する予算特別委員会に出席され、私は委員長を務めさせて頂きました。自治体の首長として初の予算特別委員会に臨まれた感想をお聞かせください。また、先日の決算特別委員会で、令和2年度の決算が認定されました。樋口区政の実質上初の予算編成に臨まれるお気持ちをお聞かせください。

樋口高頭区長

(以下、樋口区長)：

予算審議では大切な税金を預かる行政として、誠意ある説明に努めました。内田委員長はじめ区議会の皆さまのご尽力に心より感謝しております。令和4年度は、区民の皆さんの安全安心の確保を第一に、明るさを取り戻し、地域活力を創出できる予算の編成を進めてまいります。

スポーツと地域コミュニティ

内田：樋口区長らしい予算編成を楽しみにしています。私はこれまで、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化を訴えて来ましたが、地域コミュニティの衰退は、スポーツを通じて人々が交流を深めることにより、連帯感や活力の醸成に大きく貢献できると考えています。

樋口区長：…ご指摘の通り「コミュニティの衰退は、マンション居住

樋口高頭
千代田区長
×
内田直之

まちづくりに関わる著名な方々と、内田直之との対談を連載でご紹介します。記念すべき第1回目のゲストは、千代田区の樋口高頭区長にご登場いただきました。

内田：私は、都心にプロサッカーチームを創りたく活動を続けています。Jリーグへの加盟を目指すには「Jリーグ100年構想」にチームとして認定される必要があります。そのホームタウン(自治体)に千代田区もなっていないことをご検討頂けないでしょうか。文化としてのスポーツが、この千代田区で確立されることを願っています。

樋口区長：スポーツは、勝敗や記録を競うプロスポーツから、健康目的や日常生活での運動まで幅広くあります。ご提案につきましても、様々な観点から庁内・体育協会・区議会などと議論を積み重ねていくことが大切だと考えております。私は、あらゆる機会を通じて皆さんがスポーツを楽しむ環境づくりを進めてまいります。

ご多忙のなかお時間を頂き、新型コロナ対策からまちづくりや議会との協力など、多岐にわたってお話を伺うことが出来ました。樋口区長には、改めて御礼申し上げます。そして次回の対談は、二元代表制の一端を担う、千代田区議会の桜井ただし議長にご登場いただく予定です。



Profile

内田直之(うちだ なおゆき)

1964年、熊本市生まれ B型。
国立有明高専建築学科を卒業後、トステム株式会社(現LIXIL)に入社。事業企画室長や商品企画室長、多くの開発プロジェクト責任者に就任。2011年より千代田区議会議員を3期10年勤め、議会運営委員長や予算特別委員長、会派では幹事長、政調会長を歴任。2021年東京都議会議員選挙に立候補するも次点にて惜敗。一級建築士。

●学歴

国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴

トステム株式会社(現LIXIL) 25年間勤務
U&D・パートナーズ一級建築士事務所 代表

●所属団体

一般社団法人 千代田区サッカー協会 会長
千代田区ラグビーフットボール協会 副会長
千代田区軟式野球連盟 顧問
千代田区相撲連盟 顧問
千代田区ゲートボール協会 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
社会保険労務士会 千代田統括支部 顧問
公益財団法人 京葉鈴木記念財団 顧問
自民党東京都支部連合会 都政対策副委員長
一般社団法人 東京建築士会

千代田 Column

三菱1号館



丸の内にある「三菱1号館」は、1894年(明治27年)にジョサイア・コンドルにより設計された国内最初の洋風貸事務所(オフィスビル)です。煉瓦造の建物には当時、銀行や商社、郵便局などが入居していました。1968年(昭和43年)、老朽化のために解体されましたが、2009年(平成21年)三菱地所による再開発により復元されました。

復元にあたっては、残っていた当初の設計図や解体時の実測図、写真、明治期の雑誌などを基に設計され、そのプロセスは大変注目されました。可能な限り再現を図る一方、赤煉瓦は当時に近い製法で製造された中国製であり、現在の建築基準法に適合する為の変更や、千代田区の地区計画に順じたセットバックなど、再現できなかった点も多々あるそうです。この復元を非難する人も中にはいますが、空調や電気設備、松杭から免振基礎への変更はむしろ必要だと感じます。

現在は、「三菱1号館美術館」として地域の文化発信拠点として活用されています。併設されている「CAFE 1894」もクラシカルな雰囲気がとても素敵です。歴史的建築物の保存・活用は、再開発における重要課題だと思います。「機能更新」と「歴史的文化的資産」の共存は簡単ではありませんが、地域の歴史や文化を如何に次世代に伝えられるかを、今度とも皆さんと一緒に考えて行きたいと考えています。

Action

活動ギャラリー



千代田区親善ゲートボール大会
緊急事態宣言が明けて初めてのスポーツイベント。開会式でご挨拶をさせて頂きました。

(株)Stock Baseの関氏と菊原氏
大学を休学し起業したお二人。廃棄を削減し、循環型社会の構築を目指します。



東京武蔵野ユナイテッドFC
福田雅CEO

Jリーグ100年構想を念頭に、千代田区との連携について意見交換致しました。



岸田文雄総理大臣

都議会議員選挙に応援に駆けつけられました。当時は元外務大臣、元防衛大臣。



自民党東京都連総決起大会

都議会議員選挙に向けて、自民党東京都連にて決起大会が開催されました。次点にて惜敗。

